

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「悪い」超幅が大幅拡大した。
—— 製造業、非製造業ともに「悪い」超幅が大幅拡大した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	食料品、金属製品	外出の減少に伴う需要の拡大
	悪化	はん用・生産用・業務用機械、 輸送用機械、電気機械、紙・パルプ、 非鉄金属、繊維、窯業・土石製品	内外需要の低迷 外出の減少に伴う需要の低迷
非製造業	改善	小売	外出の減少に伴う需要の拡大
	悪化	卸売、運輸・郵便、対個人サービス、 宿泊・飲食サービス、情報通信、 建設、電気・ガス、対事業所サービス、 鉱業・採石業・砂利採取業	外出の減少に伴う需要の低迷 設備投資・公共工事受注の減少

- **先行き**については、「悪い」超幅が拡大する見通しである。
—— 製造業、非製造業ともに「悪い」超幅が拡大する見通し。

(事業計画)

- 2020年度の**売上高**および**経常利益**は、前年を下回る計画である。
—— 経常利益は、製造業で、自動車関連の低迷や設備投資需要の鈍化などから、減益計画となっている。非製造業は、外出の減少の影響やコストアップによる利幅縮小などから、減益計画となっている。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業では、利益率改善の取り組みなどから、上方修正となった。非製造業では、外出の減少の影響などから、下方修正となった。

- 2020年度の設備投資は、前年を上回る計画である。

—— 製造業は、前年の大型投資の反動や投資計画の縮小・先送りなどから、前年を下回る計画である。非製造業は、新規出店や能増投資、老朽化設備の更新投資などから、前年を上回る計画である。

—— 前回調査対比で見ると、製造業では、前年度からの後ずれや大規模な能増投資がみられたことなどから、上方修正となった。非製造業では、新規出店計画の拡大などから、上方修正となった。

- この間、2019年度の売上高、経常利益、設備投資は前年を下回った。

(その他の判断項目)

- 販売価格判断D. I.は、「下落」超幅が拡大した。仕入価格判断D. I.は、「上昇」超幅が縮小した。
- 雇用人員判断D. I.は、「不足」超幅が大幅縮小した。
- 資金繰り判断D. I.は、「楽である」超幅が大幅縮小した。貸出態度判断D. I.は、「緩い」超幅が縮小した。借入金利水準判断D. I.は、「低下」超幅が小幅拡大した。

以 上